

勿凝学問 352

2004年改正年金法施行日朝刊の記事

保険料を上げることは、それに耐えうる企業に労働者を雇ってもらいたいということ

2011年1月25日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

何年も前から、書き留めておきたかったことを書いておく。

2004年6月に改正年金法は成立している。そしてそれが施行された同年10月1日の朝刊の中に、「厚生年金、進む空洞化 納付逃れより巧妙 改正年金法、きょう施行」という記事があって、それを僕はずっと覚えていた。

なぜ、覚えていたか？

労働者に、将来、意味のある年金を準備するために、年金保険料の引上げを決めることは、それに耐えうる企業に、日本の労働者を雇ってもらいたいということであり、それは同時に、それに耐え切れない企業には、市場から退出してもらうことを覚悟することである。そうであるのに、改正年金法に基づいて保険料が上がった日に、企業の「これ以上保険料が上がれば、従業員の福利厚生を考える企業が生き残れなくなる」という言葉を報道する意図はどこにあるのだろうか？との読後感を抱いたからである。

後に、僕はある記者と知り合いになり、彼は、彼がいままで書いた記事のすべてをコピーした莫大な量の書類を、僕に送ってきた。そこで僕は、全部に目を通した。その中に、2004年10月1日朝刊の記事をみつけたわけである。また、そのコピーの中に、後に僕が何回となく引用することになる、彦根東高校新聞部員 [年金「つぶれない」って本当？](#) もあったわけである。

さて、記事「厚生年金、進む空洞化 納付逃れより巧妙 改正年金法、きょう施行」は後に紹介するとして、保険料を上げる、さらには最低賃金を上げるなど、労働市場への政策介入を、僕がどのように考えているか——このあたりは、僕が経済政策、社会政策をどのように考えているかと強く係わるので、過去に発言したり書いたりしたものを二つばかり載せておきます。

日本歯科医師会(081112)「 権丈教授に医療政策をきく 第1回 」『日本歯科医師会雑誌 (2009, Vol. 61, No. 10)
--

権丈

実際のところ、仕事が生産性を持っていると考えた方がいいのであって、ある仕事の中で1人の労働者が1日の労働時間を1時間、2時間増やそうが、働き方を変えようが生産力はそんなに変わらないんですよ。たとえば、会社の中で良い業績をあげた人に優秀賞をあげるという話があるとき、結構、同じ人が何度も受賞するということが起こるんですね。理由は、その人が業績をあげやすいポスト、仕事を転々とするからでしょう。要は、仕事が生産性を持っているわけで、生産性が高い仕事をこの国にいかにつくるかが重要になってくるんです。良いポスト、職業をこの国にいかにつくることが経済政策、産業政策では重要あって、この国に今ある産業構造をまったく変えずに、生産性をあげることはなかなか難しい。

スウェーデンなどで「同一労働、同一賃金」とよく言われますが、あれは非常に怖いこと、生産性が低い企業は倒産しなさいということも意味するんですね。つまり、低い生産性しか持っていない会社は潰れなさいということになります。潰れて、そこで職を失った労働者を生産性の高い企業あるいは産業に移すことを積極的に展開していくための標語が「同一労働、同一賃金」なんです。この政策を展開すればものすごい構造転換を伴ってきます。そのときに補償するために、社会保障を使っていくわけです。

大久保歯科医師会会長

今の日本の社会の中でいまの職を守るという理念が行き過ぎると、構造転換が起きにくくなってしまいうわけですね。

権丈

起きにくくなります。

大久保

それを起こさないと、市場は活発化しないしきちんと維持できない。そのかわり、構造転換して、今までのポジションが壊れてしまった人をセーフティネットできちんと支えていくと。今のお話を聞いていて思い出したのは、戦艦大和の話です。真珠湾攻撃で、日本は、巨艦を作って戦艦どうして戦うという従来の世界の海戦の戦術を一変させ、戦闘艦と飛行機の組み合わせという戦術を開発したのに、なぜかその後も相変わらず大和のような巨艦を作ることをやめなかった。その原因は、水兵を失業させられないということでした。

権丈

まさにそこです。だけど、水兵を失業させたとしても空軍の充実をという意識で国策を展開していくときには、水兵は自分の仕事がなくなっても自己責任ではないはずですよ。それを、失業者の自己責任だと言って彼らを放っておいたのが、小泉安倍政権下での構造改革の最大の弱点であって、彼らの失業は社会的責任なのだから、社会全体で補償しましよ

うと言わなければならないところだと思わうんです。

大久保

だからこそ、その部分で社会的にきちんとやりますよと。

勿凝学問 172 [積極的社会保障政策という景気対策——社会保障重視派こそが一番の成長重視派に決まってるだらう](#)

もつとも、この国の需要構造の大転換のために、生産要素の移動は生じる。社会保険料や税の負担が高くなって、奢侈品の消費は控えられるであろうが、負担増の部分は、すべて社会保障の現物給付に使われるのであるから、奢侈品の減少分の生活必需品は増加して、そこに新たな雇用が生まれる。そして労働の移動が生じる際のさまざまな摩擦には、社会保障というセーフティネットのできる限り対応する。

これは、僕ではなく妻の説明の仕方なんだけど、社会というのは、児童労働の禁止をはじめとして、ある条件を満たす企業、社会的に定めた一定水準以上の労務コストを負担することができる企業にしか、その社会での存在意義を認めないという判断をしているんだよな。年金保険料を2017年に18.3%にまで上げると決めることは、それに耐えうる企業に、日本の労働者を雇ってもらいたい、耐えきれない企業にはご退出願わいたい、低賃金労働者に依存したビジネスモデルから新しいビジネスモデルに転換してもらわいたいということをとすることを意味するわけである。そしてもし、ある企業が、その保険料の負担に耐えられず、そこで働いていた人が失業することになれば、それは、その労働者ひとりの個人的責任と自然法の帰結ではなく、社会全体で負わなければならない社会的責任なのだから、セーフティネットと職業訓練でしっかりと対応する。そしてそういう政策が、成長政策の一環でもある。

こういう考えが根っこにあるから、2004年改正年金法が施行され、保険料が上がった日の朝、次の記事を見て、だからどうしたいと言わうだらうか？という違和感を抱いたわけである。まあ、保険料を上げるなどいつているのでないとすれば、なんとなく租税方式にした方がいいというニュアンスを感じないわけではないが。。

2004年10月01日 『朝日新聞』朝刊三面

厚生年金、進む空洞化 納付逃れより巧妙 改正年金法、きょう施行

6月に成立した改正年金法が1日から施行される。厚生年金保険料（労使折半）の引き上げを皮切りに、国民年金保険料のアップ、年金の夫婦分割など段階的に制度が変わる。来年度の厚生年金保険料の負担増は労使合わせて約5千億円。引き上げは14年間続く。企業の中には保険料逃れの動きが広がりつつあり、社会保険庁は強制加入など強い姿勢で臨もうとしている。しかし、負担能力がない企業も多く、滞納が増えて年金財政を圧迫す

る可能性もある。

東北地方の運送会社は9月、厚生年金に新規加入したのにあわせて、従業員2人に払う月給のうち約12万円ずつを「出張時の日当」にした。月給額を少なくすれば、払う保険料も少なくすむ。会社負担を年間20万円ほど「節約」できる。「違法すれすれ的手段」と女性社長（35）。無理して加入したが、従業員は「将来もらえるかどうかわからない年金のために、手取りが減るのは困る」と不満を漏らしたという。

静岡県内のクリーニング会社は、3年前に25人いた正社員を10人に減らし、その分を保険料負担のないパート従業員で賄う。それでも厚生年金に未加入の同業者も多く、料金の値下げ競争では不利だ。経営者（62）は「これ以上保険料が上がれば、従業員の福利厚生を考える企業が生き残れなくなる」と訴える。

「休業する」などと偽って年金から脱退する企業も増えている。静岡県内の温泉旅館は一昨年、厚生年金を偽装脱退した。値下げ競争で経営が悪化し、保険料の滞納額が700万円に達していた。滞納分は分割で払い続けるが、再加入のめどは立たない。経営者（51）は「同じ温泉街の半分以上が、厚生年金に入っていないのでは」と話す。

○強制加入、滞納招く恐れ

こうした保険料逃れは滞納にならないため、収納率に影響しない。いわば「見えない空洞化」だ。厚生年金保険料の収納率は98%あるが、見えない空洞化が広がれば従業員の将来の年金額が減るだけでなく、全体の保険料収入が減り、国民に約束した給付水準を維持できなくなる可能性もある。

社会保険庁は一定規模以上の未加入企業を強制加入させる一方、脱退届をチェックし直して偽装脱退を洗い出す方針を打ち出した。強い姿勢の背景には、保険料アップで未加入や保険料逃れが増え、国民に不信や不公平感がさらに広がるとの危機感がある。

一方、負担能力がない企業を無理やり加入させれば、今度は滞納額が増えることになる。企業が滞納しても、従業員は保険料を払ったとみなされ、年金を受け取ることができる。滞納が増えれば増えるほど、年金財政は悪化することになる。

一橋大学の高山憲之教授（公共経済学）は「企業は様々なやり方で保険料を節約しようと必死で、保険料収入は間違いなく見通しを下回るだろう。労働者が魅力を感じ、企業側に加入を働きかけるような、公平で信頼できる制度をつくるしかない」と指摘する。